

「セコム Vitalook」及び「セコム OWEL」を活用した 鳥羽市「医療 MaaS」が新車両での運用を開始

セコム株式会社（本社：東京都渋谷区、社長：吉田保幸）のグループ会社でメディカル事業を担うセコム医療システム株式会社（本社：東京都渋谷区、社長：小松 淳）が医療 ICT 面で支援してきた三重県鳥羽市の「医療 MaaS (Mobility as a Service)」の新車両での運用が7月19日から開始されます。新車両での運用に先立ち、7月10日に鳥羽市において「鳥羽市医療 MaaS」車両の披露セレモニーが開催されました。

鳥羽市では、人口減少に伴い、今後医療従事者も減少していくと見込まれており、医師の業務効率化に加え、患者の受診機会の増加を実現するため、「医療 MaaS」の取り組みを推進しています。セコム医療システムは、2020年より鳥羽市の離島を含む7カ所の診療所や、オンライン診療専用の診察室「答志町オンライン診療室」に遠隔診療支援プラットフォーム「セコム Vitalook」及びクラウド型電子カルテ「セコム OWEL」を提供し、オンライン診療の環境整備を支援。2023年12月より開始された鳥羽市による「医療 MaaS」の実証においても、医師による遠隔からの診療を実現するため、「セコム Vitalook」及び「セコム OWEL」の提供による支援を行ってきました。

今回、鳥羽市で新車両での運用がはじまった「医療 MaaS」は、MONET Technologies 株式会社が提供する医療 MaaS 車両が地域の集会所や患者の自宅を訪問し、看護師の補助の下、車内で「セコム Vitalook」を使用して、遠隔地にいる医師が患者とビデオ通話を行いながら、動脈血酸素飽和度 (SpO2) や血圧、心電図などのバイタル情報に加え、聴診音や医療用カメラによる喉や皮膚、耳の中の精細な映像をリアルタイム伝送することにより、より質の高いオンライン診療 (D to P with N) を行うことができます。また、「セコム OWEL」を用いて医師・看護師が、診療記録の参照・記録を行い、車内で診療明細書や処方箋の発行といった医事業務が可能のほか、マイナンバーカードを使用した保険証の確認（居宅同意取得型）にも対応しています。

セコム医療システムでは、過疎地や離島など医師が少ない地域においても、多くの人が高品質な医療を受けられるように、今後も ICT を活用したサービスの提供によりへき地医療に貢献してまいります。

■問い合わせ先

本件に関するお問い合わせは、以下までお願いいたします。

セコム医療システム株式会社 企画本部 野口 高杉

TEL : 03-5775-8150



新型の鳥羽市医療 MaaS 車両



医療 MaaS を推進する鳥羽市診療関係者（医師、看護師）



「セコム Vitalook」と「セコム OWEL」電子カルテ端末



鳥羽市の中村欣一郎市長によるオンライン診療体験